

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	体育	特進理系	3	体育科教員
教科書	現代高等保健体育				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点＝100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点①	体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる ※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価			
	観点②	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
	観点③	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習 過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要があれば授業内で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション(新学期・実技指導・内) ○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
	7		【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
2	9	現代高等保健体育	【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	11		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
	12		【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	1	現代高等保健体育	【グラウンド・体育館・柔道】持久走 【ダンス】 ・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導 ※実技テストも行う。
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	保健	特進理系	1	松岡 横山 佐藤 村山 城戸
教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題				
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題				
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含） レポート提出				
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。				
図書資料の活用	必要があれば授業内で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康
	5		
	6		
2	7	現代高等保健体育	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動
	9		
	10		
3	11	現代高等保健体育	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法
	12		
3	1	現代高等保健体育	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法
	2		
3	3	現代高等保健体育	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭科	家庭基礎	進学文系	2	矢部
教科書	大修館書店「Creative Living『家庭基礎』で生活をつくろう」				
副教材	教育図書「家庭科55デジタル＋資料集＋食品図鑑＋デジタルコンテンツ」				
評価基準	観点① 知識・技能 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付けていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身に付けていること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ちその充実向上を目指して主体的に取り組む態度を身に付けている。				
考査・評価方法	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 観点①②共に40点分（内各10点は実技点）、観点③20点の100点満点のテストを実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 3学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	家庭科の授業では、教科書や資料を読んで「知識・技能」を得るだけでなく、その「知識・技能」が実際に生活でいかせるよう、実習や実験によって体験したり、他者との話し合いによって考えを共有し合い、自分で問題を見つけ調べたりすることで、解決していく力をつけることをねらいとする。				
図書資料の活用	郷土料理レポート作成、ロールプレイングで悪質商法をシミュレーションする際に図書室を活用予定				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		<生活のマネジメント> 1 生涯、発達し続ける 2 青年期の課題と自立 3 ひとり暮らし 4 家族について 5 子供の世界を知る 親になること	生涯発達の考えかたに立ち、各ライフステージごとの特徴と課題について理解する。 自分の生活と自分自身について自己理解を深める。 住宅情報誌を利用し初期費用の算出やアルバイトについて考える。 家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて理解する。 子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。 おやつ実習および絵本作り
2		<食生活のマネジメント> 1 体と心を満たす食事 2 調理のワザを身につける 3 郷土食について 4 人生100年時代の高齢期	食事の持つ意味を知る。 現在の食生活の現状を理解し、どのようにすれば健康的な食生活が送れるのか考える。 調理を科学的に理解する態度を養う。 沖縄修学旅行にむけての事前学習 調理実習および野菜の切り方テスト 人間の発達の完成期とともに現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。
3		<消費者教育のマネジメント> 1 18歳で変わる消費生活 2 進むキャッシュレス化	消費にかかわる契約について理解する。 契約を交わす際の注意点、発生する法的責任、契約に関するトラブルについて知る。 キャッシュレス化にともない、みえにくいお金の動きを的確にとらえられるような意識的な家計管理が必要であることを理解する。

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	英語	EC II	特進	4	石川
教科書	FLEX English Communication II (増進堂)				
副教材	大学入試 英語長文読解問題集 Vertex Level 3 リンケージ英語構文 (旺文社)				
評価基準	観点① 知識・技能 長文：扱った長文の表現をoutputできる、文章展開のキーワードがわかる 構文：基本例文で扱った事項をもとに、構文の役割および日本語訳ができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 長文：各パラグラフのTopic Sentenceを見極める、Summary & Opinionが言える 構文：整序英作文および英作文ができる 入試問題：授業で習ったことを入試問題で応用できるかどうかをチェックする				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 英語アプリ レシピーの取り組み 暗唱/筆記テスト (リンケージ英語構文の基本例文)				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施				
方法	上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	言語習得の基本は、「英語を理解すること(input)」「理解した英語を内在化すること(intake)」「内在化した英語を使い発信すること(output)」 【Step 1：理解】①リスニング(1回)→②速読→③精読 【Step 2：内在化その1】音源付き音読(Reading Aloud, Overlapping)、音源なし音読 【Step 3：内在化その2】シャドーイング 【Step 4：発信】要約・意見を伝える (思考言語を日→英へ変換、自動化させる) *Booster Bookは精読の補助として使う *Listening, Reading, Speakingの3技能を徹底的に鍛えることにより、どのような入試問題にも対応できる力をつける *リンケージ英語構文は「読める」レベルに到達するための橋渡し				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	Vertex Unit 1-4	Vertexは左記の進め方 リンケージ英語構文は、1考査ごとに1章分進めていく 考査ごとに入試問題も扱う
	5	リンケージ 第1章 中間考査	
	6	Vertex Unit 5-8 リンケージ 第2章	
	7	期末考査	
2	9	Vertex Unit 9-12 リンケージ 第3章	同上
	10	中間考査 Vertex Unit 13-16	
	11	リンケージ 第4章	
	12	期末考査	
3	1	Vertex Unit 17-16 + 追加	同上
	2	リンケージ 第5章	
	3	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴公民	地理総合	特進理系	2	佐々木
教科書	『高校生の地理総合』（帝国書院）、『新詳高等地図』（帝国書院）				
副教材	『高校生の地理総合ノート』（帝国書院）				
評価基準	観点① 知識・技能				
	基本的な知識を身に着け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に着けているか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に着けたらよいかを考えながら、授業を受けてください。				
図書資料の活用	授業中に図書資料を紹介する。 新聞を読み、レポートを提出する課題を課す。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	世界の地形と人々の生活	生活と地形のかかわり 河川・海岸の地形
	5月	現代世界の国家と領域 中間考査	氷河・カルスト地形・乾燥地形 国家の領域と国境
	6月	世界の気候と人々の生活	生活と気候のかかわり 雨温図・景観写真
	7月	世界の産業と人々の生活 期末考査	各気候帯 生活を支える農業の発展 生活を支える工業の発展
2	9月	地図から見る国内や国家間の結びつき	国際機関・貿易・交通通信・観光
	10月	多様な生活文化と地理的環境 東アジア	経済発展による生活文化の変化
	11月	中間考査 ヨーロッパ 地球的課題と国際協力	伝統の継承と生活文化のかかわり 人口問題 食糧問題
	12月	期末考査	
3	1月	自然環境と防災	日本の自然環境 地震津波や火山活動による災害と防災
	2月		気象災害と防災 自然災害への備え
	3月	学年末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学II	特進理系	4	花澤
教科書	数研出版数学IIおよび数学III				
副教材	4STEP数学IIおよび数学III ＊参考書としては旺文社「総合的研究 数学II+B」および「総合的研究数学III」を推奨				
評価基準	観点① 知識・技能 問題を解くための最低限の知識（剰余の原理・二項定理・等式不等式の証明技法・相加相乗平均不等式・平面における直線の方程式・円の方程式・軌跡を得るための同値変形・加法定理・対数の定義・導関数の定義・微分計算・積分計算etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。 ・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。 ・チャートはおすすめしません。「この問題はこのパターンで解く」を集めることは数学の学習ではありません。旺文社の「総合的研究」で事項の裏にある原理や論理を追求してください。 ・その他おすすめ参考書→「数学の真髄 論理・写像」「数学の真髄 ベクトル」				
図書資料の活用	ルネ・ドーマル「類推の山」 論理による類推とはなにかについて、鮮明なイメージを与えてくれます。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	式と証明
		参考書	複素数と方程式
		ノート	三角関数
	5	4STEP	
	6		
	7		
2		教科書	指数対数関数
		参考書	微積分（数II）
		ノート	演習？
		4STEP	
3		教科書	関数
		参考書	極限・連続性
		ノート	
		4STEP	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学B	特進理系・特進文系	2	花澤
教科書	数研出版数学Bおよび数学C				
副教材	4STEP数学Bおよび数学C ＊参考書としては旺文社「総合的研究 数学II+B」および「総合的研究数学III」を推奨				
評価基準	観点① 知識・技能				
	問題を解くための最低限の知識（基本的数列・シグマ記号の扱い・数学的帰納法の原理・漸化式・ベクトルの加減実数倍・基底による表示の一意性・内積etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。				
評価基準	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
	①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。 ・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。 ・チャートはおすすめしません。「この問題はこのパターンで解く」を集めることは数学の学習ではありません。旺文社の「総合的研究」で事項の裏にある原理や論理を追求してください。 ・その他おすすめ参考書→「数学の真髄 論理・写像」「数学の真髄 ベクトル」				
図書資料の活用	ルネ・ドーマル「類推の山」 論理による類推とはなにかについて、鮮明なイメージを与えてくれます。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	数列とは 基本的数列の扱い シグマ記号 数列を式で説明するのが漸化式 数学的帰納法
		参考書	
	5	ノート 4STEP	
2	6		ベクトルを点の移動としてイメージする ベクトルの和・差 ベクトルの拡大縮小＝実数倍 ベクトルを具体的に説明したものが成分表示 基本的な移動の方向＝基底 平面の基底は2つで良い 内積の計算 ベクトル方程式は軌跡のベクトル版
	7		
		教科書 参考書 ノート 4STEP	
3		教科書 参考書 ノート 4STEP	空間ベクトルも点の移動 成分表示は3つになる 基底も3つ必要 空間の方程式を得るのはベクトルが便利

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学選択	特進理系	2	駒崎
教科書	数研出版改訂版数学Ⅱ、数研出版改訂版数学C				
副教材	数研出版4step数学IIB、数研出版4step数学IIIC				
評価基準	観点① 知識・技能 いろいろな式、図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	・授業中は副教材(4STEP 数学II+B)も使用する予定なので、毎授業必ず持ってきてください。 ・数学Ⅱの授業と合わせて2学期までに数学Ⅱの全範囲の学習を終え、3学期からは数学Ⅲの学習に入っていきます。 ・数学Ⅱの内容は、大学入試においてもかなり重要になる項目が多いため、教科書の内容を中心にしながらも応用的な問題も極力扱っていく予定です。				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 方法序説・デカルト 基礎線形代数講座：線形代数 回転の表現・株式会社セガ開発部				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 問題集	第1章 式と証明
	5		
	6		
	7		
2	9	教科書 問題集	第3章 図形と方程式
	10		
	11		
	12		
3	1	教科書 問題集	数学C第3章 複素数平面
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	理選物理	特進理系	4	有田
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	セミナー物理基礎＋物理（新課程版） 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組み、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。 クラスの様子を見て、適宜進度を変えて授業を行う可能性があります。				
図書資料の活用	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理基礎1章1節	速度と加速度
		運動の表し方	等加速度運動と落体の運動
	5	物理1章1節 平面内の運動	放物運動
		物理基礎1章2節 力	力のつりあいと作用反作用
		物理1章1節 剛体のつりあ	剛体にはたらく力
	6	物理基礎1章3節	慣性の法則
	7	運動の法則	運動の法則と運動方程式の活用
2	9	物理基礎2章1節	仕事と力学的エネルギー
		運動とエネルギー	力学的エネルギー保存
	10	物理1章2節 運動量の保存	運動量と力積
			運動量の保存
		物理基礎2章1節	衝突とエネルギー
		熱とエネルギー	熱と温度、熱と仕事
	11	物理1章5節	比熱と熱容量
	12	気体分子の運動	気体の状態方程式
3			気体の内部エネルギー
			気体の状態変化
	1	物理基礎3章1節 波の性質	波の性質と波の表し方
		物理2章1節 波の伝わり方	重ね合わせの原理
	2	物理基礎3章2節 音	音波と発音体の振動
		物理2章2節 音	音の伝わり方とドップラー効果
	3	物理2章3節光	光の伝わり方とその性質
			光の回折と干渉
			レンズ

2025年度

学年	教科	科目	単位	担当者
2	理科	生物基礎・生物	5	岡田
教科書	第一学習社 生物基礎 ・ 第一学習社 生物			
副教材	第一学習社 新課程二訂版 スクエア最新図説生物			
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。			
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。			
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関する課題図書のサマリーを作成する。			
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。			
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20			
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。			
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。			
	観点③ サマリーの内容を元に判断する。			
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか？に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。			
図書資料の活用				

授業の計画

学期	月	教材・内容	課題図書
1	4	生物基礎 第3章 ヒトのからだの調節	4月～5月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000226674
	5		6月～7月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000275712
	6		
2	7	生物基礎 第5章 生態系とその保全	9月～11月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000369798
	9		
	10		
3	11	生物基礎 第4章 植生と遷移	12月～2月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000194598
	12	生物 第1章 生物の進化	
	1	生物 第2章 生物の系統と進化	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎	4		石田
教科書	実教出版 化学基礎academia 化学academia				
副教材	セミナー化学基礎＋化学				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
図書資料の活用	理科学的な思考力を強化したい人は、以下の文献を参考にしてください。 「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス 戸田山和久				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	化学基礎 2章 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合 4節 化学結合と物質	分子からなる物質の性質を理解 金属原子間の結合及び金属からの性質を理解する。
	5	3章 1節 物質と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物の基本事項を学ぶ。
	6	2節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱とイオン濃度との関係およびpHについて理解する。
	7		
2	9	2節 酸と塩基	中和滴定と滴定曲線により、中和を理解する。
	10	3節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を理解し、還元反応が電子の授受によることを理解する。
	11		酸化剤と還元剤の反応と実用電池形成の関係を理解する。
	12		酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。
3	1	化学 第1章 物質の状態と平衡	
	2	1節 状態変化 2節 固体の構造	結晶格子の概念および結晶の精製する。
	3	3節 気体の性質	気体の体積と圧力や温度との関係について理解する。
		4節 溶液の性質	

.
ずする。 なる物質
質量
水素イオ いて理解
和反応を
変化還元反 理解する。
電池の
生 る。
製造を理解
係を理解

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	国語	論理国語	選抜理系	2	二瓶
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語』準拠ワーク(数研出版) 『TOP2500 三訂版』(いいずな書店) 『現代文単語 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字を正しく書け、語彙を適切に使えるようになる。(知識) ・文学史の中で作者の果たした役割を理解する。(知識) ・文章の構成や論理の運びを正しく理解できる。(技能)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章の内容を重要度の軽重を含めて理解できるようになる。(思考力) ・多くの選択肢から正答を選べるようになる。問いに的確に答えを出せる。(判断力) ・音声や文字を通じて他者に自ら理解したことを簡潔に伝えられるようになる。(表現力)				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・読書を計画的に進める。(計画性) ・他者と協働する事で、課題の解決を図ろうとする。(協調性) ・協働の末、自力で作成した成果物を期限内に提出する。(自律性)				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施				
方法	上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	【ねらい】理系選択は「論理国語」2単位のみが国語の教科となる。授業の柱は大きく二つある。一つ目は、教科名どおり論理的思考に基づいて文章を読み解く力を養うことである。二つ目は、社会に出てから当然知っているものとして扱われるような近現代の代表的な文学作品に触れ、人間の思考の傾向や感情の奥深さに触れることである。これら二つのねらいを統合することで、現代の評論は近代の思考の葛藤を土台としていることを理解してもらいたい。そして、先人の考えを蓄積していくことは、自らの考えの幅を広げ、相手を受け入れる懐の深さにつながっていく、つまり生きる力を養うことであることを最終的には感じ取ってもらいたい。 【進め方】右の「授業の計画」に挙げた教材は、進度によっては削る場合がある。副教材に基づいた小テストは随時実施する。				
図書資料の活用	授業開始後5分間読書をする。長期休みも利用し、1年に2冊読了することを目標とする。(うち1冊は夏目漱石『こころ』) 授業内容に沿って、参考資料となる図書資料を適宜提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	東浩紀「弱いつながり」	人生の発展に寄与するもの
	5	清岡卓行「手の変幻」 - - - 中間考査 - - -	美学の古典的評論
	6	竹内啓「偶然とは何か」	科学の発展に寄与するもの
	7	村上陽一郎「科学・技術の歴史の中の社会」 【夏休みの課題】 (1)『山月記』全文プリント (2) 5分間読書用の本読了 (3) 夏目漱石『こころ』用意	広島・長崎の原爆忌の前に科学の功罪を学ぶ
2	9	上田紀行「『内的成長』社会へ」	個々の自己実現とコミュニティの場の重要性について
	10	中島敦『山月記』(プリント) - - - 中間考査 - - -	自己実現における葛藤について
	11	岩井克人「未来世代への責任」	現代社会が直面する問題の重み
	12	夏目漱石「現代日本の開化」 - - - 期末考査 - - - 【冬休みの課題】 『こころ』読了	時代の変化に直面した文豪は日本についてどうとらえたか
3	1	夏目漱石「こころ〈抄〉」	夏目漱石について多角的に学ぶ
	2	北側扶生子「漱石が生きた時代」	
	3	- - - 学年末考査 - - -	

二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	二年次では、共通のテーマに基づいたフィールドワークを実施する。 また、フィールドワークの振り返りを兼ねて、特定分野の学問研究を行う。 個人でテーマを設定し個人での探究を行い、3学期に発表会を実施する。 一学期 防災をテーマとして、フィールドワーク・学問研究を行う。 二学期① 沖縄をテーマとして、ミニ探究を行う。 二学期② 個人でテーマを設定し個人探究を行う。 三学期 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。
教材 教具	□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「locus Program」 □ ルーブリック表 □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	フィールドワーク・学問研究を行う。 授業の流れ（概要） 1. 防災新聞の紹介・発表 2. 防災のための地方自治体の取り組みを学ぶ 3. フィールドワークの準備・計画・発表 4. フィールドワーク 5. フィールドワークの振り返り 6. サプライチェーンについて学ぶ
夏休み	一学期の振り返りと二学期の準備
二学期	前半 沖縄をテーマにしたミニ探究（1. 2. 3.） 後半 個人で設定したテーマに基づく探究（4. 5.） 授業の流れ（概要） 1. 夏休みの課題についてグループ内で発表 2. 沖縄をテーマにしたミニ探究 3. ミニ探究成果発表 4. 個人のテーマ設定、ゼミ分け 5. 個人探究 【沖縄修学旅行】沖縄ミニ探究に基づくフィールドワーク

三学期	個人探究を進めて学年末の探究成果発表会の準備を進める。 授業の流れ（概要） 1. 個人の探究を進める。 2. ゼミ内での発表・振り返りを行う。 3. 学期末に探究成果発表会を行う。 【探究成果発表会について】 中間発表という位置づけで行う。 中間発表を踏まえて三年次一学期に再度取り組む。
-----	--

注意	
基本	・校外学習・修学旅行をフィールドワークとして位置付ける。 ・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・校外学習や修学旅行を通じて、事前に調べたことや学んだことを現地での活動に活かす。
	・ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
※二年次は個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。 ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。